

2018 年 10 月 31 日

CA Technologies、メインフレーム・ソリューションをアップデートし、 ハイブリッド環境対応のインテリジェントなオープン・プラットフォームを推進

～CA Brightside の中核コンポーネントと API Remediation をオープンソースとしてリリース。
機械学習により、クロスプラットフォームの運用インテリジェンスとコンプライアンスのための
これまで以上に高度なインサイトを提供～

(本資料は、[2018 年 10 月 30 日に米 CA が発表した情報の抄訳です](#))

(2018 年 10 月 30 日、ニューヨーク発)

CA Technologies (本社：米国ニューヨーク州、マディソン・アヴェニュー、CEO：マイケル・グレゴア) は、近代化と統合化の取り組みを加速するよう設計された[メインフレーム・ソリューション](#)のアップデートを発表しました。これにより、顧客企業各社はメインフレームをデジタル・トランスフォーメーションの戦略的イネーブラーとして活用し、収益拡大を推進することができます。これらの新機能や強化機能により、インテリジェンスと自動化でリソースを最大限に活用し、データを保護しつつ、ハイブリッド環境全体で最先端のテクノロジーとオープン・イノベーションを活用することが可能になります。

CA Technologies メインフレーム担当ゼネラル・マネージャ Greg Lotko

メインフレームは、最も優位性をもたらすプラットフォーム上でワークロードを実行するあらゆるハイブリッド IT 環境にとって不可欠な存在です。IT アーキテクチャが進化を続ける状況にあってメインフレームをアジャイルで統合化された存在にするために、オープン DevOps と機械学習ベースの運用可能なインテリジェンスを網羅する、より簡素化されたユーザ・エクスペリエンスをもたらすことができるのは、CA をおいてほかにありません。

Ensono (大手ハイブリッド IT サービス・プロバイダー、CA のパートナー) パートナー開拓担当 バイス・プレジデント Jim Magnus 氏

CA のツールは、開発者やメインフレーム・ユーザーなどが働くダイナミックな環境において、柔軟で、使いやすく、費用対効果に優れたツールであることが分かりました。当社の仕事と CA Technologies との関係は、お客様のデジタル・トランスフォーメーションを推進するうえで欠くことができないものです。当社は、お客様がハイブリッド IT 環境を最適化し、近代化できるよう、メインフレームのイノベーションに適切な投資を行っているものと確信しています。

開発と運用を近代化することでイノベーションの効率を促す

[Open Mainframe Project](#) の [Zowe](#) [イニシアチブ](#) の設立コントリビュータの one of である CA Technologies は [Eclipse Public License 2.0](#) を通じて、[CA Brightside](#) ソリューションと API Remediation のコードベースのオープンソース化を進めており、これによって IBM® z/OS® プラットフォームに対するコラボレーションやイノベーションの機会の増大が見込まれます。CA Brightside は、メインフレームを企業の DevOps ワークフローに簡単に統合できるように設計されているため、開発チームは、コマンドライン・インタフェースを通じて、Jenkins、Gradle、IntelliJ などの使い慣れたオープンソース・ツールを使用し、他のクラウド・プラットフォームと同様にメインフレームのコントロール、スクリプト作成、ビルドなどを行うことができます。パブリック・ドメインを使ってコードを公開する

ことで、これまでよりも広範囲にわたるコミュニティが新たなイノベーションと改善に貢献できるとともに、メインフレーム・プラットフォームとエコシステムをさらに強化することができます。

Open Mainframe Project ディレクター John Mertic 氏

CA Technologies が Eclipse Public License を通じてコードを正式にリリースしてくれたことを大変うれしく思っています。この事実は、オープンコミュニティ・モデルを支えとして、Zowe フレームワークを成長・発展させるという同社の強い決意を示しています。また同時に、このことは継続的なイノベーションを確保し、メインフレームのお客様が最新の技術にアクセスできるようにするためにも重要なステップです。

リソースの不足に対処しながら、[アジャイル開発](#)と [DevOps](#) の手法にも遅れをとらないよう四苦八苦している企業にとって、CA の先進的な [Continuous Testing](#) ソリューションのアップデートは、より高品質のソフトウェアをより短期間で完成できるようにするテスト機能をメインフレーム企業に提供してくれるものです。開発チームは、[CA Service Virtualization](#) を使用してメインフレーム環境を仮想化することによってソフトウェア・テストをより効率的に行い、[CA BlazeMeter](#) を使用して機能テストと性能テストを行い、さらに [CA Test Data Manager](#) を使用してメインフレーム上には残さないテスト・データを作成できます。

IT オペレーションのリーダーは、メインフレームから各種のクラウド・プラットフォームや分散プラットフォームまで、ますます複雑化した環境を管理しています。[CA の AI Ops 駆動型プラットフォーム](#)の一部として最近発表された [CA Operational Intelligence](#) は、包括的なサービス・インテリジェンスを提供し、クラウドからメインフレームに至るまで、構造化された、あるいは構造化されていない様々なデータソースを分析することで、IT 運用チームが潜在的な問題にこれまでよりもずっと早期に対応し、根本的な原因を短時間で切り分け、最終的には会社の事業に影響が及ぶ前の問題解決を可能にします。

メインフレームのデータとアプリケーションを活用して新しい革新的なアプリや顧客との取り組みを推進することは、企業が高まるコンプライアンス・リスクに対処していることと同じです。コンプライアンスはすべてのデータとプロセスに影響を及ぼす問題であるため、メインフレーム上でのリスクの影響度を完全に分析できる簡素化されたソリューションを持つことがきわめて重要です。[CA Data Content Discovery](#) の新しい機械学習機能は、カスタム・アナリティクスとデータ・クラシファイアの作成を簡素化して、これまでより高レベルの精度を実現し、新データをその生成に呼応して発見するよう自動化することで、コンプライアンスの問題を大規模に解決できるようにします。この機能はさらに、主要な知見（インサイト）の視覚化を改善し、メインフレームおよび非メインフレームの IT スタッフが、メインフレームのデータ・インフラストラクチャ全体にわたり潜在的なリスクを容易に把握できるようにしてくれます。

モバイルからメインフレームに至るまで包括的にインフラストラクチャを最適化できるよう CA Technologies が企業顧客をどのように支援しているかについては、www.ca.com/mainframe およびブログ「[Zowe: オープンソースによりハイブリッド IT の能力を強化する](#)」を参照してください。

CA Technologies について

CA Technologies (NASDAQ: CA) は、ビジネスの変革を推進するソフトウェアを提供し、アプリケーション・エコノミーにおいて企業がビジネス・チャンスをつかめるよう支援します。ソフトウェアはあらゆる業界であらゆるビジネスの中核を担っています。プランニングから開発、管理、セキュリティまで、CA は世界中の企業と協力し、モバイル、プライベート・クラウドやパブリック・クラウド、分散環境、メインフレーム環境にわたって、人々の生活やビジネス、コミュニケーションの方法に変化をもたらしています。CA Technologies の詳しい情報については、<http://www.ca.com/us.html> (米 CA Technologies)、<http://www.ca.com/jp> (日本)をご覧ください。また、ツイッターについては、https://twitter.com/ca_japan をご覧ください。

*本文中に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

この件に関する報道機関からのお問い合わせ先：

CA Technologies

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9 JA 共済ビル9階

コーポレート・コミュニケーション部

TEL: 03-6272-8110 FAX: 03-6272-8115

e-mail : ca-pr@kyodo-pr.co.jp